

棄てられた本文

——伝二条為氏筆新古今和歌集切を端緒として——

舟見一哉

一、はじめに

『新古今和歌集』には、成立時期に近い鎌倉時代に書写された古筆切が数多く残っている。京都大学附属図書館谷村文庫にも学界未紹介の古筆切がある。鎌倉時代後期ごろに書写されたと推定される「伝二条為氏筆新古今和歌集切」である。

『新古今和歌集』の古筆切の本文については、これまで取りあげられる機会が少なかつたように思われる。けれども、鎌倉期に書写された古筆切のなかには、本稿で紹介する伝二条為氏筆切をはじめとして特異な本文を有するものが少なくない。この事実を提示することが本稿の第一の目的である。そして、それら独自本文の存在から、『新古今和歌集』の編集過程で、撰者らによる本文改訂がなされた可能性を提示することが第二の目的である。

著者の意向により「一 はじめに」のみ公開